



## 本日はよくお参り下さいました

寒さ厳しき折、皆さまいかがお過ごしでしょうか。11月26日に、新嘗祭(にいなめさい)を行い、今年収穫された新穀を供え大神様に感謝の祈りを捧げました。その後、場所を内川町内会館に移し、砂村新左衛門翁没後350年を記念して当社宮司が砂村新左衛門についての講演を行いました。当社は砂村新左衛門が、江戸時代初期に入海であった久里浜周辺の新田開発を行った際に新田鎮護の神社として創建したことが由来です。そのため砂村新左衛門と大変縁が深く、関係する資料も多く保有されています。それらの資料から、砂村さんが人望篤く、大神さまのお知恵を頂きながら、村人の協力を得て、困難に負けず、大きな事業を完遂させたことや、何より優しい人柄の人物であったことがわかることでした。現代に生きる私達も砂村さんから学ぶことは多く、久里浜の歴史を知る上でも欠かせない人物です。たくさんの方に砂村さんのことを知って頂けたらと思います。今月も皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。権禰宜道子



## 12月

**1日・15日 月次祭(つきなみさい)** 皇室の弥栄と国家の発展、氏子・崇敬者並びに社会の幸福と平和を祈る。

**5日 酉の市** だるまや熊手など、多くの露店が出店します。金運開運招福熊手守(初穂料千円)、神棚用おふだ一式(初穂料三千円)の授与が始まります。(夜九時頃まで)

**7日 大雪(たいせつ)** 時節の上で冬が始まる日。

**21日 冬至** 一年のうちで最も日照時間の短い日。ゆず湯に入ると無病息災であると言われる。

**23日 天長祭(てんちょうさい)** 天皇陛下のお誕生日。奉祝の意を表すと共に陛下のご長寿と益々のご健康を祈る祭り。

**25日 終い天神** 御祭神菅原道真公のお誕生日6月25日と薨去(こうきょ)の2月25日に因み毎月25日は、天神さまの御縁日であることから、特に12月25日は、終い天神(1月25日は初天神)と呼ばれる。

**31日 大祓(おおはらえ)** 大祓は日本人の伝統的な考え方に基づくもので、常に清らかな気持ちで日々の生活にいそむよう、自らの心身の穢れ、災厄の原因となる諸々の罪・過ちを祓い清めることを目的とする。6月と12月の年二回行われ、12月の大祓は年越の祓ともいう。

1月号はお休み  
させて頂きます

## 天神さまの豆知識

―暮らしに息づく神道―  
神道の慣習や行事のなかには、日本人の日常生活に溶け込んでいるものがあります。例えばお正月に飾る鏡餅や、おとそ、おせちなどのごちそうは、神さまに供えるためのものです。また家の出入り口にすえる門松は、家々に一年の実りと幸せをもたらすために、高い山から降りてくると考えられて、新年の神様、歳神さまを歓迎する意味があります。



また、日本の家庭や会社には、室内に神棚を設けているところが多くあります。神棚は、家内安全や商売繁盛を願ってまつります。おふだを納める場所を「神座(しんざ)」といい、新座の正面中央に鏡、左右に神と灯明を置きます。鏡は神様の魂が宿るものとされ、神聖視されてきました。その鏡を神棚に飾るのは、神さまが世の中を照らして見えるようにするためと、穢れのない真心のしるしとするという考えからです。神には「神霊の宿る木」「栄える木」という意味が。灯明には清浄な火で照らし清める意味があります。神棚に供えられた一つ一つのものに意味があるのです。参考文献『知っておきたい日本の三大宗教』河出書房発行

## お祭り歳時記

### うそかえ神事

大宰府天満宮など  
(二月の行事)



うそは幸運を招く鳥とされ、毎年新しいうそ鳥に替えると、これまでの悪いことを、うそにかえられると信仰されてきました。現在は、うそを神社にお納めするようになりました。うそ鳥は、日本海沿岸に生息するスズメ科の鳥で、太宰府天満宮のお祭りのとき、害虫を駆除したことから天神さまとご縁があります。又、鸞(うそ)の字が學の字に似ていることも、学問の神様である天神さまとのつながりが深いと考えられています。

## 今月の言葉

『過れるを改むる善の、これより大きなるなし。』

慈円「愚管抄」より

自分がこれまで誤ったことをして、たのに気付かず、その過ちを改めることほどの善行はない。間違いや失敗、誤ったことなど誰にでもあるものだ。しかし過ちを悔いることも改めることもなく、勝手な言い訳や知らぬふりをするのは罪である。己の過ちと向き合い、自分の失敗を認めることは、恥ずかしく辛い。過ちは消えない。だからこそ、過ちを正す勇氣と判断力を育てるのが大事である。参考文献『神道のことば』武光誠監修 河出書房新社発行